

新機能リスト

この資料では、以前のバージョンでは使用できなかった、InfoWorks® WS Pro 2024.0 に新しく導入された追加機能、改良点について説明します。

バグの修正に関する詳細は [リリースノート](#) をご覧ください。

クラウドマスターデータベースの追加

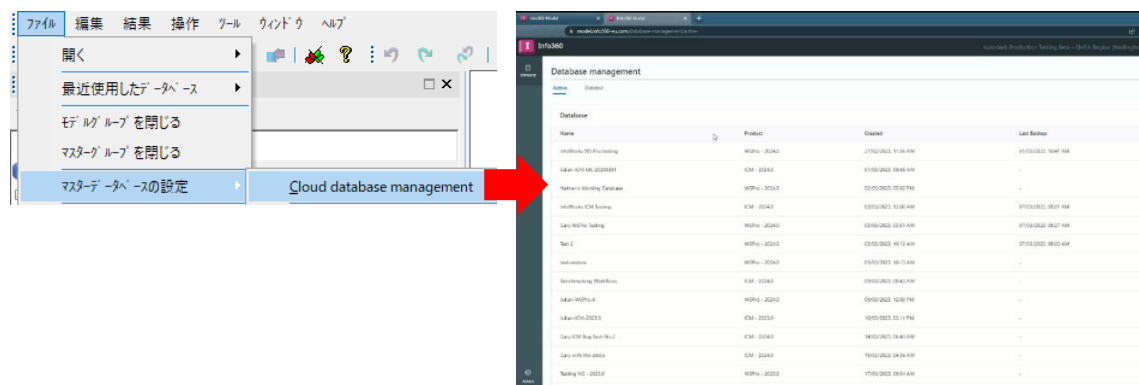
InfoWorks WS Pro の [Autodesk サブスクリプションライセンス](#) をお使いの場合、クラウドベースの SaaS 機能をお使いいただけるようになりました。

Autodesk サブスクリプションをお使いの場合、クラウドにデータベースを保存して作業していただくことが可能です。インターネット接続があればどこからでも作業することが可能であり、チームメンバー間でクラウド上で変更内容を同期することが可能です。この新しいタイプのデータベースには、マスターデータベースの選択ツールからアクセスすることが可能です。

スタンドアロンおよびワークグループのマスターデータベース（ヘルプ内では「オンプレミス」マスターデータベースと総称されるようになりました）は、Autodesk サブスクリプションまたは Innovyze のライセンスを保有する全ユーザーが引き続き利用できます。

クラウドおよびオンプレミスのマスターデータベースの使用に関する詳細については、[Master Database](#) のトピックをご覧ください。

InfoWorks WS Pro 挙動は、クラウドと直接やり取りするために一部調整されています。ご注意ください。詳細については、[Differences Between Working with Cloud and On-premise Master Databases](#) トピックにてご覧いただけます。



ウェブポータルでクラウドデータベースの管理が可能に

クラウドデータベースは、ウェブページを通じて管理することが可能です。このウェブページでは、データベースのバックアップ、復旧、削除、リネームが可能です。クラウドデータベースを管理するウェブページにアクセスするには、「ファイル」>「マスターデータベース設定」>「Cloud database management」へ進みます。このメニューは、アクティブなデータベースがクラウドデータベースである場合にのみ利用可能です。

クラウドシミュレーションが可能に

クラウドデータベースをお使いの場合、全シミュレーションは、Autodesk がホストするオンデマンドリソースを使用してクラウド上で行われます。消火用水量、重要リンク分析、マルチランなどの複数シミュレーションを実行する場合、必要に応じて並列クラウドコンピューティングリソースが提供されます。各ユーザーは、一度に最大 80 のシミュレーションの並列バッチにアクセスすることが可能です。これにより、インターネットに接続するだけで大規模な並列解析を行い、従来よりもはるかに短い時間で結果を得ることが可能となります。

現在、全てのランタイプがクラウドコンピューティングを利用できるわけではありません。詳細については、[Differences Between Working with Cloud and On-premise Master Databases](#) をご覧ください。

クラウド上でのマルチランの結果管理

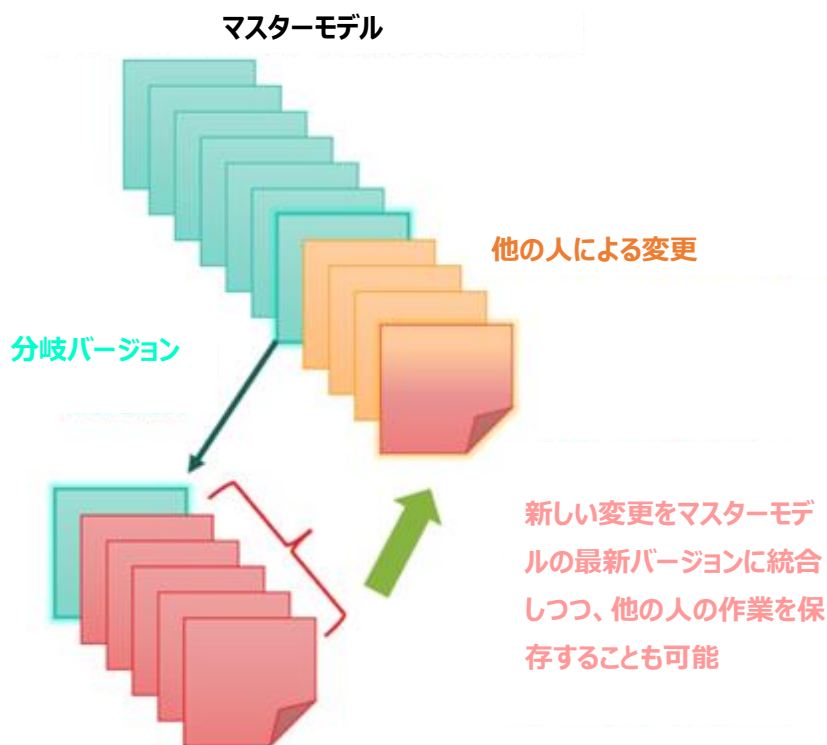
クラウドデータベースを使用する場合、重要リンク分析とマルチランの結果の動作が改善されました。デフォルトでは、サマリー結果テーブルはユーザーマシンにダウンロードされますが、個々のシミュレーションは全てクラウドに残り、オンデマンドでダウンロードすることが可能です。個々のシミュレーションは、ツリー内に緑色の薄いアイコンで表示され、ダウンロード可能であることを示します。さらに、サマリータブの任意の行を右クリックし、選択した行の完全な結果やログファイルを開いたり、データベースツリーでそのシミュレーションを検索したりすることが可能です。

サブスクリプションバージョンで InfoWorks TS (Transient System) のシミュレーションが可能に

InfoWorks TS のシミュレーションと機能が Autodesk のサブスクリプションを利用している場合でも利用可能となりました。これにより、急激な水圧の上昇が配管ネットワークに与える影響をシミュレーションし、これらの事象を緩和するための水撃保護デバイスの役割を検討することが可能となります。詳細については、[InfoWorks TS \(Transient System\) Simulations](#) トピックをご覧ください。

他のネットワークやコントロールからの変更を合併することが可能に

ネットワークやコントロールオブジェクトを他のコピーから更新できるようになりました。これは、共有モデルから分岐を作成し、モデルへの反復的な変更を検討する際に便利です。分岐したコピーが最終的に完成した後、その変更を親コピーに統合することも可能であり、分岐が作成されてからの変更も保持されます。このプロセスは、移動可能データベースのモデルコピーを使用している組織間でも機能します。統合された全ての変更は、インタラクティブなサマリーテーブルで確認することができ、必要に応じて元に戻すことが可能です。



詳細については、[Merge changes from another network](#) をご覧ください。

JSON や CSV を使った需要ダイアグラムのインポート/エクスポートが可能に

需要ダイアグラムのデータを JSON や CSV 形式でインポート、エクスポートすることが可能になりました。これは IExchange スクリプトでもサポートされています。